

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

羽曳野市教育委員会



【調査の目的】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育政策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【実施校数】

小学校13校、中学校5校、義務教育学校1校

【実施児童生徒数】（教科に関する調査）

小6・義6年生 756名
中3・義9年生 745名

【調査内容】

①教科に関する調査

・小学校(国語, 算数) ※義務教育学校前期課程を含む
・中学校(国語, 数学, 英語) ※義務教育学校後期課程を含む

②質問調査(児童生徒に対する調査, 学校に対する調査)
※原則すべての児童生徒を対象にオンライン方式にて実施

【実施日】

令和8年4月23日(木) ※中学校英語は4/20~5/29の指定日

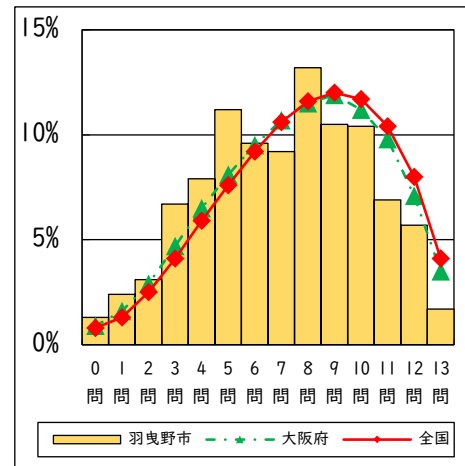
今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

小学校

国語

学習指導要領の内容	平均正答率(%)		
	羽曳野市	大阪府	全国
知識及び技能			
言葉の特徴や使い方にに関する事項	61.0	64.4	66.8
情報の扱い方にに関する事項	46.9	51.4	52.3
我が国の言語文化に関する事項	—	—	—
思考力、判断力、表現力等			
話すこと・聞くこと	57.7	63.9	65.8
書くこと	38.5	43.8	45.7
読むこと	61.5	65.3	65.9

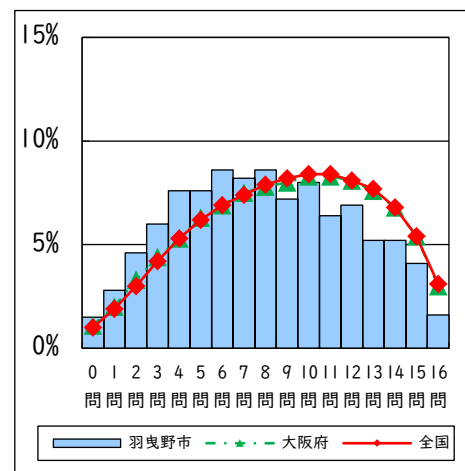
- 漢字を文の中で正しく使うことができます。
- 文章を読んで理解したことから、自分の考えをまとめることができます。
- 集めた情報や資料から、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があります。



算数

学習指導要領の領域および評価の観点	平均正答率(%)		
	羽曳野市	大阪府	全国
領域			
数と計算	55.9	61.1	61.1
図形	45.9	54.2	55.3
測定	71.7	77.6	78.1
変化と関係	36.4	40.6	41.1
データの活用	42.2	48.0	48.6
評価の観点			
知識・技能	53.5	59.8	60.1
思考・判断・表現	39.6	44.9	45.4

- 小数の仕組みを理解し、条件に合う小数をつくることができます。
- 数を四捨五入して、およその数(概数)で表すことができます。
- 二次元の表(複数情報)から、条件に合う数を読み取ることに課題があります。

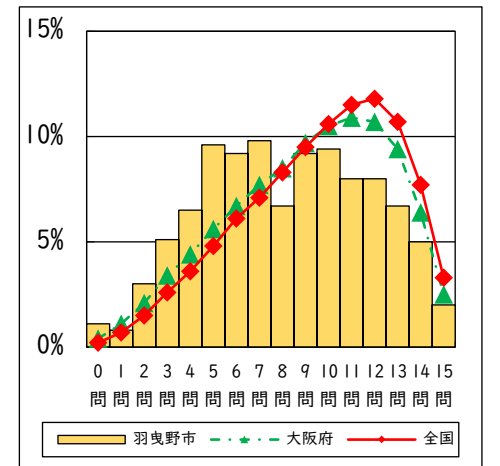


中学校

国語

学習指導要領の内容	平均正答率(%)		
	羽曳野市	大阪府	全国
知識及び技能			
言葉の特徴や使い方にに関する事項	56.2	60.4	63.0
情報の扱い方にに関する事項	62.3	66.8	70.4
我が国の言語文化に関する事項	—	—	—
思考力、判断力、表現力等			
話すこと・聞くこと	50.4	60.2	63.9
書くこと	57.1	64.5	67.4
読むこと	51.9	56.8	59.7

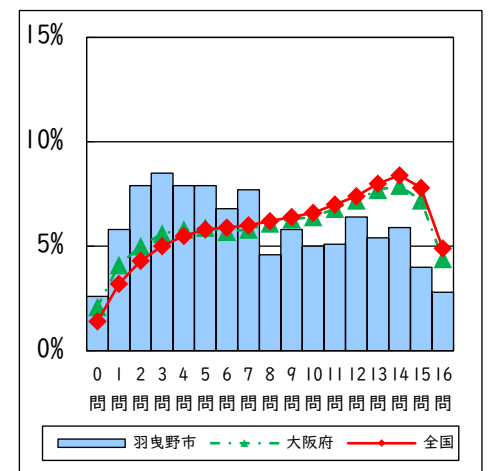
- 助動詞の働き(文法)について理解できています。
- 叙述を基に、文章全体の構成(まとめ)を捉えることができます。
- 良い点や改善点を見出したり、結論を導くために考えをまとめるなど、「記述式」の問題形式に課題があります。



数学

学習指導要領の領域および評価の観点	平均正答率(%)		
	羽曳野市	大阪府	全国
領域			
数と式	59.9	65.6	67.8
図形	36.9	48.0	48.7
関数	47.4	52.8	54.8
データの活用	38.2	49.7	53.5
評価の観点			
知識・技能	53.1	60.9	63.0
思考・判断・表現	26.4	36.6	39.1

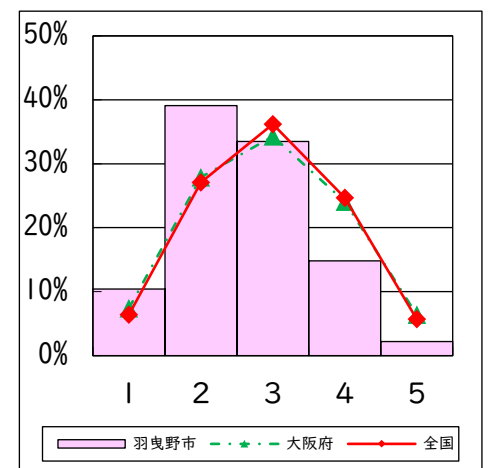
- 反比例を表す対応表の特徴を捉え、対応する値を求めることができます。
- 正負の数で表したり同類項を選ぶなど、基礎的な知識技能が身についています。
- 「データの活用」の領域において、度数分布表における累積度数の意味や、データの傾向を的確に捉えて説明することに課題があります。



英語

全日程共通の公開問題における学習指導要領の領域および評価の観点	平均正答率(%)		
	羽曳野市	大阪府	全国
領域			
聞くこと	49.1	56.8	57.9
読むこと	46.1	56.1	57.4
書くこと	36.4	46.9	46.5
話すこと	23.0	30.3	34.1
評価の観点			
知識・技能	46.2	54.9	56.3
思考・判断・表現	28.5	38.1	39.2

- 日常的な話題について、目的に応じて必要な情報を聞き取ったり、短い文章から概要を捉えることができます。
- 事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くなど、「書くこと」領域の「記述式」問題形式に大きな課題があります。



学力調査結果より

今年度の各教科の羽曳野市全体の平均正答率は小学校・中学校ともに、全国平均を下回りました。各教科において、複数の情報や資料をもとに説明する記述式の問題において、課題が見られます。授業中はもちろん学校生活の様々な場面において、自分の考えをまとめたり、多様な他者に対して表現する機会を設けることが必要だと考えられます。

本市では、「自分の考えをわかりやすく伝えるように表現する力」の育成を重点課題とし、各校において研究及び授業改善を進めています。学習用タブレット端末(以下、タブレット)をはじめとするツールを活用して考えを整理したり、ペアやグループなど他者と協働して考えを深める場面を設定して、子どもたちが自ら学びを調整することで学ぶ力を育む授業づくりをめざしています。

CBT(Computer Based Testing)方式での実施について

- ・タブレットを活用した調査です。
- ・問題は、全生徒が取り組んだ問題と生徒ごとに異なる問題があり、公開問題と非公開問題があります。
- ・右記正答率は、全生徒が取り組んだ公開問題についてのものです。
- ・右側のグラフは、学力を5段階に分けて表示したものです。

※令和9年度は小・中学校ともに、国語、算数・数学において、CBT方式による実施になります。

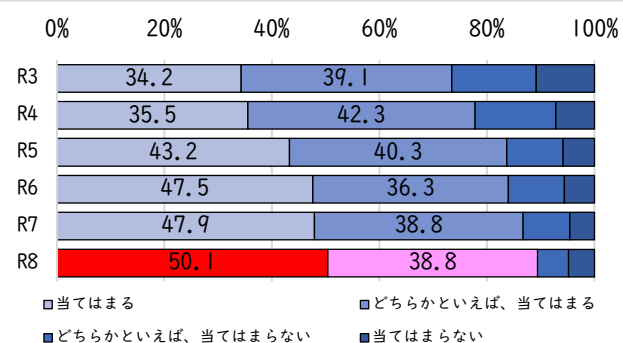
【参考】○国立教育政策研究所『令和8年度 全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料』 <https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/>
○大阪府教育庁『全国学力・学習状況調査の結果』 <https://www.pref.osaka.lg.jp/0180080/shochugakko/zennkoku/>

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

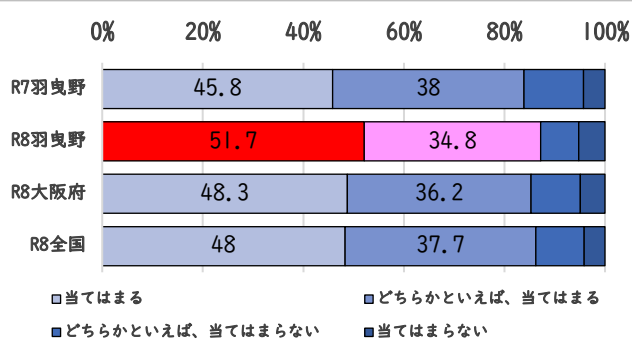
ウェルビーイングに関すること

小学校

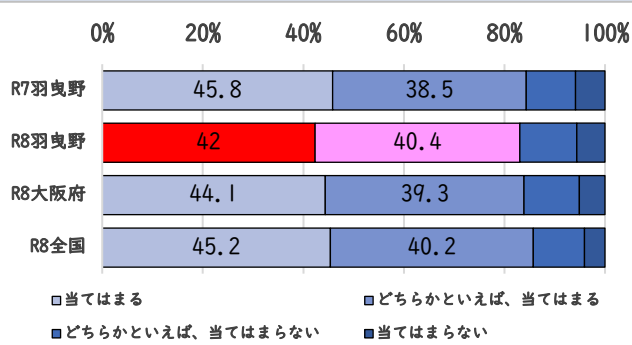
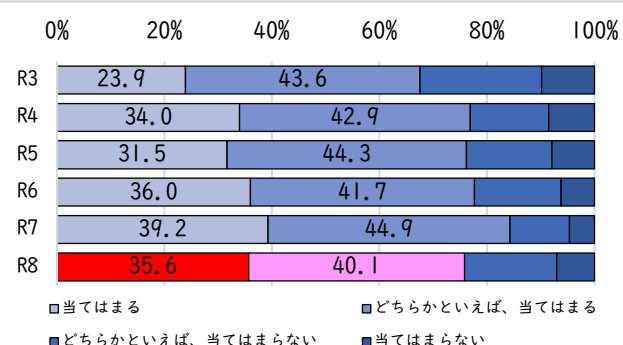
自分には、よいところがあると思いますか



学校に行くのは楽しいと思いますか

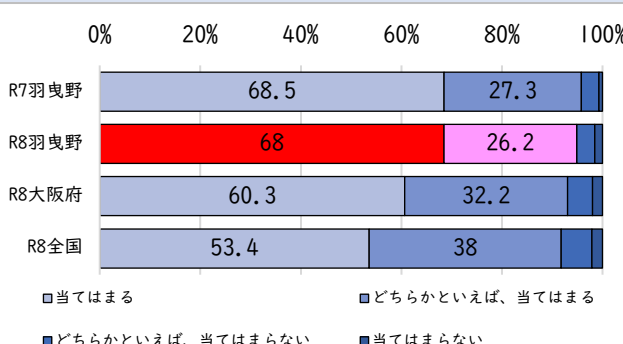


中学校

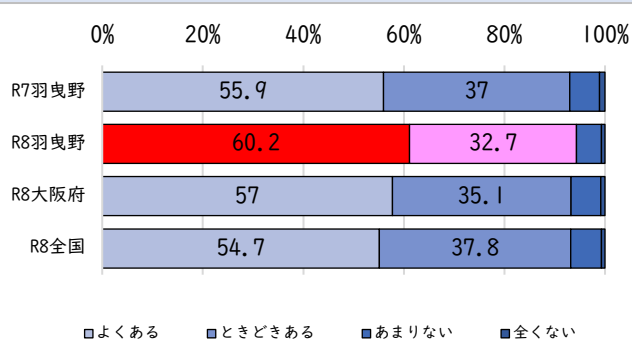


小学校

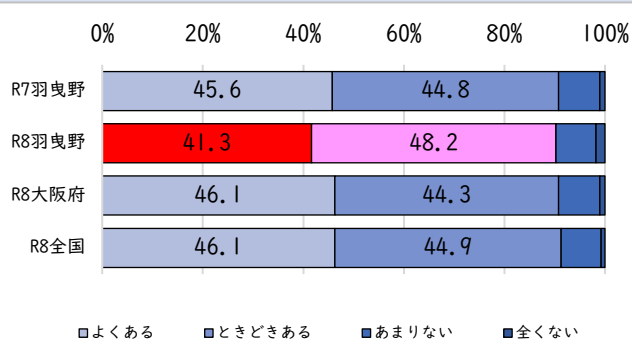
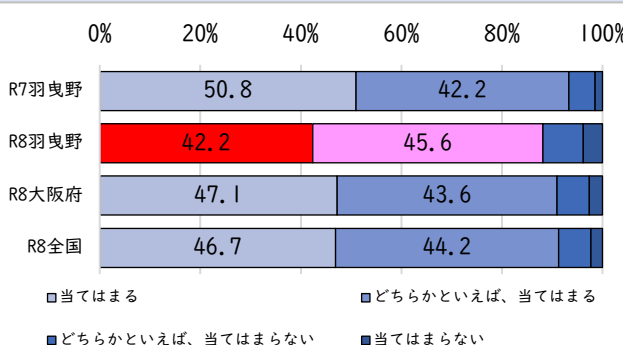
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



中学校



ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを意味します。本市では、「自分には、よいところがあると思いますか」の項目において改善傾向が見られます。子どもたちが挑戦することで得られる達成感や、他者に認められることで得られる自己有用感の向上によって、子どもたちの幸福度の向上につなげていきたいと考えています。

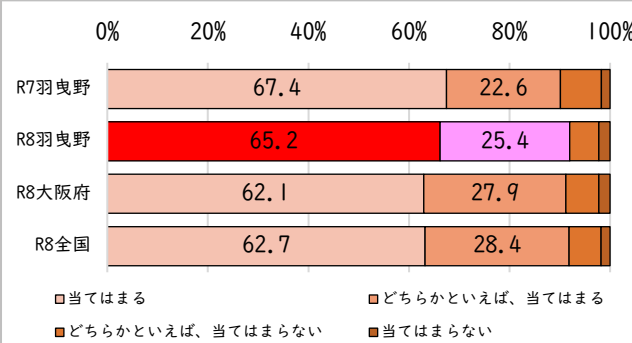
羽曳野市教育委員会



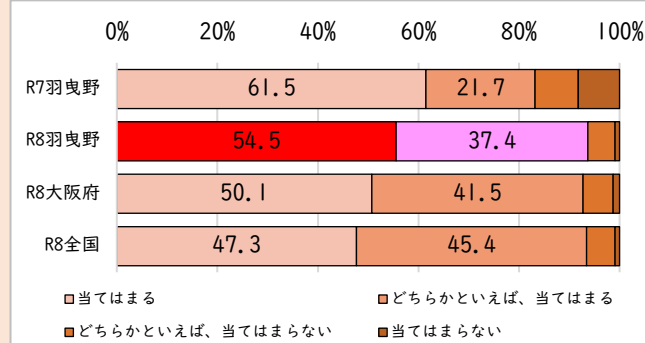
人とのかかわりに関すること

小学校

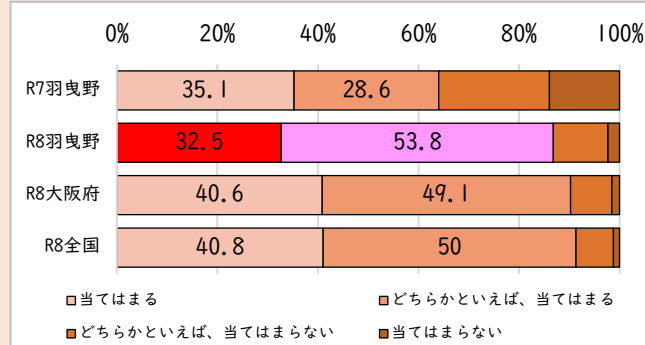
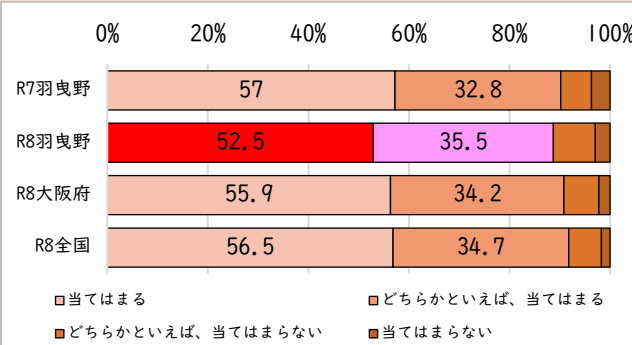
友達関係に満足していますか



人が困っているときは、進んで助けていますか

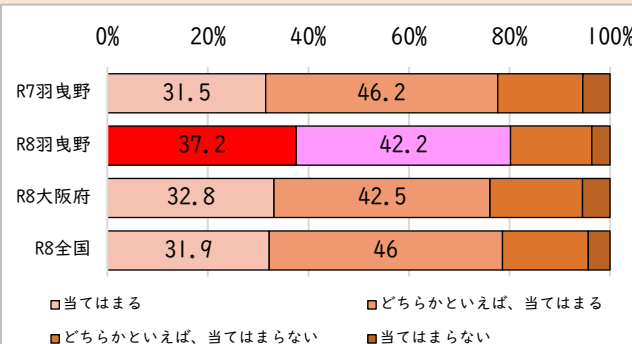


中学校



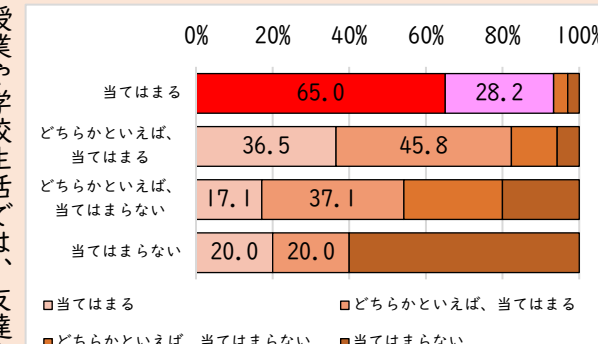
小学校

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

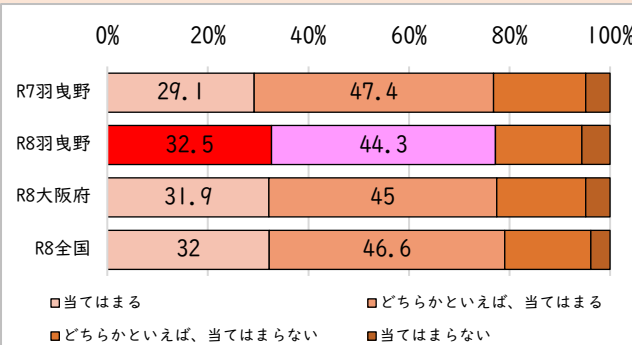


【協働的な学び】×【学校に行くのは楽しい】

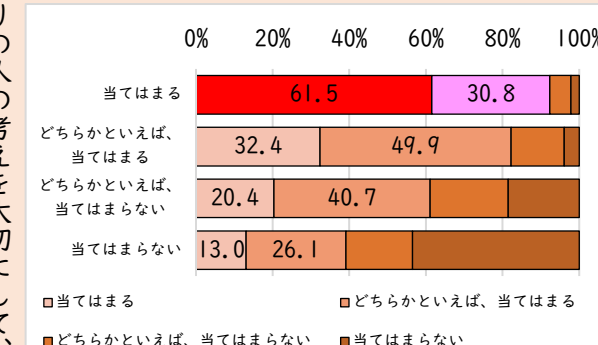
学校に行くのは楽しいと思いますか



中学校



お授業いやに学校生活などでは、課外活動や部活動の取組の取組をい大切にしています。



各学校では、授業をはじめとする様々な場面で他者との関わりや集団づくりに取り組んでいます。「人が困っているときに進んで助ける」や「自分と違う意見について考えるのは楽しい」という項目で肯定的な回答が増加しており、他者との関わりをプラスに捉えられています。また、授業や学校生活において協働的な活動に取り組む児童生徒ほど、学校に行くことを楽しいと感じてくれています。

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

羽曳野市教育委員会

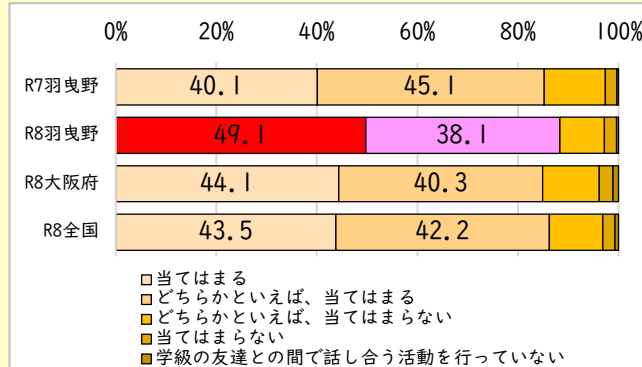
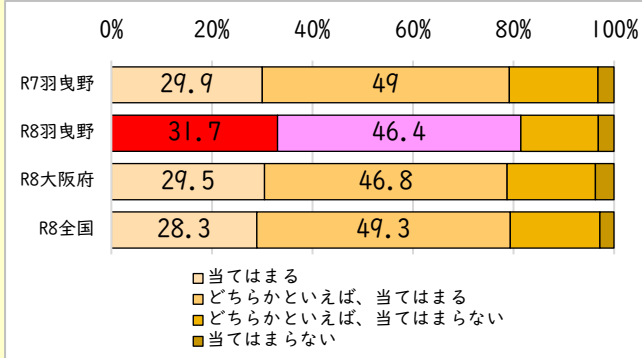


授業・学習に関すること

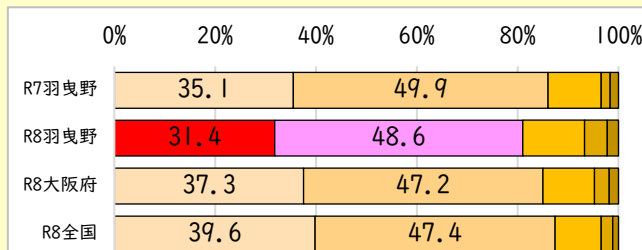
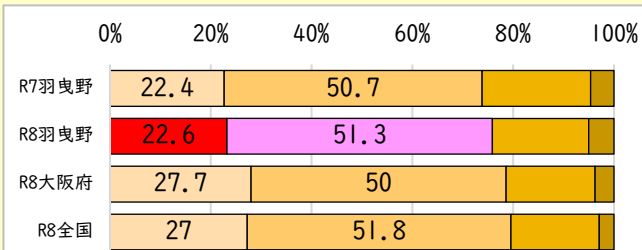
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

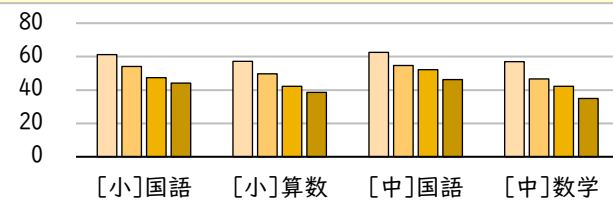
小学校



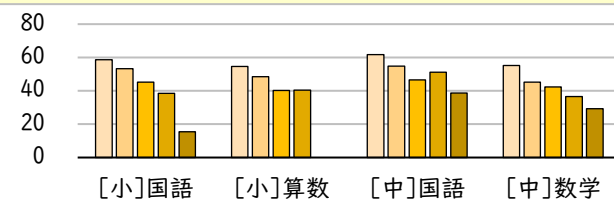
中学校



【主体的な学び×学力】

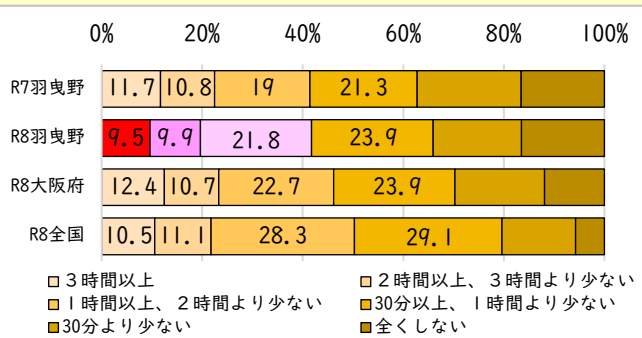


【対話的な学び×学力】



※各選択肢ごとに学力調査の正答率をグラフ化したもの(左から肯定的回答)

学校の授業以外に、普段(月～金)1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか(塾等含む)

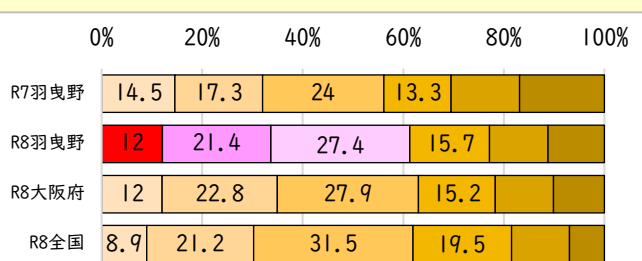


学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が求められています。主体的に学習に取り組んでいる児童生徒の割合は、今年度小・中学校ともに改善されています。対話的な学習についても、小学校で改善が見られました。主体的・対話的な学習に取り組んでいる児童生徒ほど、学力調査の正答率が高い傾向があり、学力との相関関係が見られます。引き続き、主体的・対話的で深い学びをめざした授業改善を進めてまいります。

家庭学習については、30分以上学習すると回答している児童生徒の割合が小・中学校ともに増加しています。一方で、スマートフォン等でSNSや動画を視聴する時間が、かなり長時間となっています。家庭学習の習慣づくりや、自分の生活を律する経験も含め、家庭での過ごし方について、お子様と一緒に考えていただく機会にさせていただきますようお願いします。

小学校

中学校

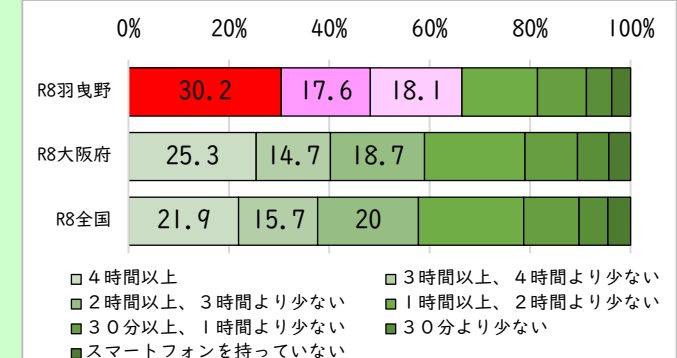
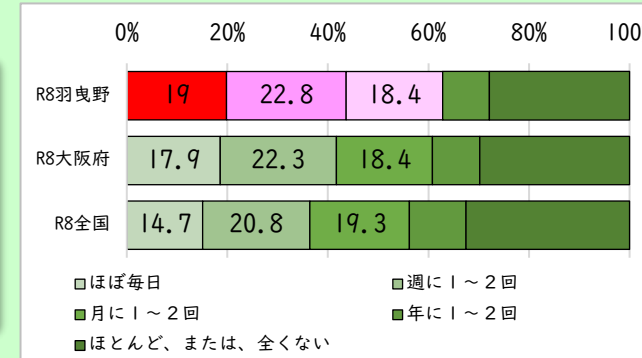


家庭・生活に関すること

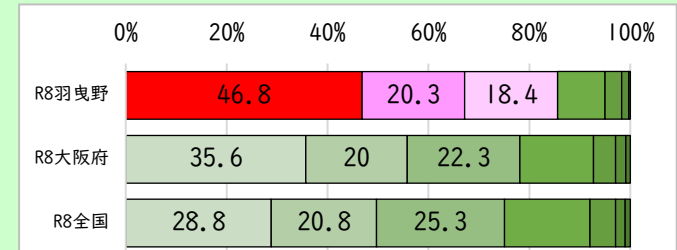
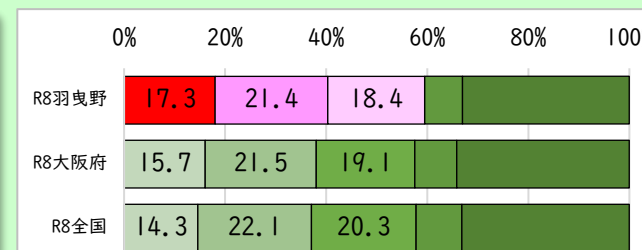
学校での悩みについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか

普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォン等でSNSや動画視聴などをしますか

小学校



中学校



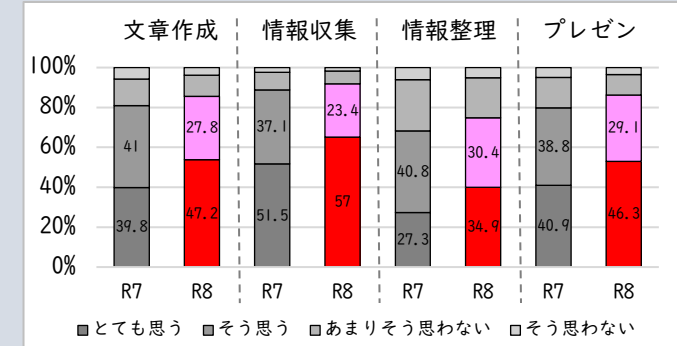
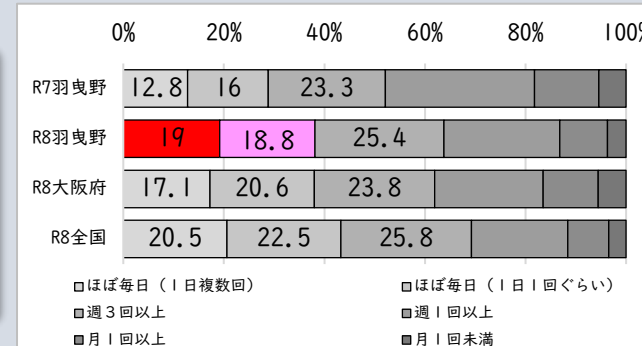
羽曳野の子どもたちは、小・中学校ともに家庭で悩みを相談する機会が多い傾向にあります。思春期の多感な時期に、ご家庭で話を聞いてもらえる安心感が、子どもたちの安定につながります。

ICT活用に関すること

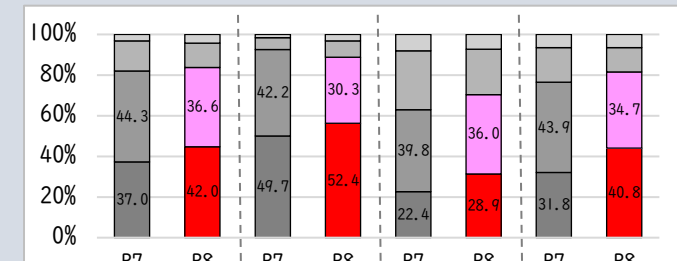
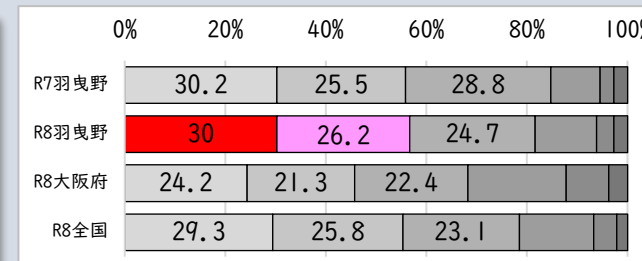
授業で、PC・タブレット機器などのICT機器をどの程度使用しましたか

あなたは自分がPC・タブレット機器などのICT機器を使って、次の作業ができますと思いますか

小学校



中学校



授業における日常的なICT機器の活用頻度については年々向上しており、今年度は小・中ともに府平均を上回りました。また、子どもたちの活用スキルについては4つの技能すべてにおいて昨年度から向上しており、特に昨年度低かった「情報整理」の項目での向上が見られます。